

いはき新報

発行日 五月十五、廿五(三回)
編集兼発行人 高木喬
印刷所 いはき新報社
本紙定価 一月十錢 三月廿五錢
半年六十錢 一年百一十錢
廣告料 場所指定 五十錢増

銃後を護る平市民よ 便衣隊ならぬ 蠅軍ゲリラ戦術の 激滅を期せ

今！我國は未曾有の重大事局に直面してゐる、よく長期戦に堪へ、所期の大目的を貫徹するためには國民一致健康を増進し體位の向上に努め、所謂人的資源の充實を圖らねばならない。

されば衛生知識、豫防觀念の缺如に因る疾病の如きは躍進國家の國民として恥辱であり、特に夏季に於ける傳染病の蔓延は銃後最大の寒心事と云はねばならぬ。わが國は地理的關係から支那、印度などの病源地から直接影響をうけ屢コレラ、ペストの脅威をうけ更に又腸チフス、赤痢(疫痢)等の消化器傳染病に至つては毎年夏季猛威をたくましくされてゐる、この恐るべき悪疫を媒介するものは重に便衣隊ならぬ蠅である、この一匹の蠅が體内外に着けてゐる病菌數は實に五百萬から三千萬と言はれ吾々の油断に乗じ一匹の便衣隊は五百萬から三千萬の病菌蠅兵と傳染病ゲリラ戦術をもつて襲來するに對し特に天候不順な夏季に於て銃後國民の保健上に汚點を印せぬやう我々市民諸氏は自戒心せねばならない。我社は第六回傳染病豫防大懸賞蠅取デーを來る八月十五日より二日間午前八時半より午後四時まで平市役所庭内に大デント受付場を設け蠅捕獲持參者に抽籤券及び色々な景品を進呈いたします。尚ほ別稿に平産婆看護婦學校長清野キヨ子女史の「どうしたらハイが澤山されるか」と云ふお話があります。是非御一讀を望みます。

雨天順延
いはき新報社
高木喬

平看護婦會長 清野キヨ子女史に感謝 第一回蠅取デーから第六回まで 無料奉仕の美舉

平市南町平産婆看護婦學校長清野キヨ子女史は本社恒例の傳染病豫防蠅取デー第一回より第五回まで老練なる看護婦を特派され手不足の本社蠅取デーに御盡力下され更に今回も自發的に奉仕申込に接し本社として心から感激御禮申し上げます。更に御多忙の身にもかかわらず「愈々蠅取デーどうしたら澤山される？」の原稿を寄與せられた事を感謝致します。

愈々十五日から二日間は新報の高木さんが例年は「蠅取デー」です。蠅が懸賞付蠅取デーを行ふの傳染病の媒介をすることは勿論幼蟲(蛆)のうちごなたも御存じのことです。に殺滅するに越したことはこれを驅除するために「いはい」が今日のはた

傳染病 大懸賞附蠅取デー

八月十五日、十六日の二日間
懸賞 特大一磅罐入 イマツハイ取粉 壹罐 壹名
二等 御家庭用器具 參名
三等 鼠取器壹個宛 五十名
抽籤日 八月十七日
発表日 各日刊紙

十七日午前十時平市役所内に於て市役所吏員、各新聞記者諸氏立會のもとに厳正に抽籤、同日各日刊紙に發表するが當選者は三日以内まで平市長橋町いはき新報社(又は中央新聞平支局)まで抽籤券持參の上御出下さい。以後は無効になります。因に本社第五回蠅取デーは時機を得た適切な企である。各位諸氏の前回同様な御後援と御贊助を得た事は心から感謝の意を表す。

湯本無盡 株式會社	郡山無盡 株式會社	平營業所	磐城炭礦 株式會社	好間礦業所	古河石炭礦業	入山採炭 株式會社	炭礦會一同	大日本電力	平營業所	石城郡行組合	各學校長會	磐城水産株式會社	白水	蓮沼龍輔	鈴木辰三郎	金成通	祈武運長久 暑中御伺候
-----------	-----------	------	-----------	-------	--------	-----------	-------	-------	------	--------	-------	----------	----	------	-------	-----	-------------

愈々明日 蠅取デー

「蠅取りデー」に關連して最も嫌ひな色であることが分りました。そこで愈々蠅取り方法ですが、これは最も原始的な方法でありますが、どうもガラスの方が能率があるやうです。私の實驗では蠅の最も好物は酢と黒砂糖を混ぜたものとなつて居ります。捕蠅器にもこれをつけたらよいと思ひます。併しゼンマイによる自動廻轉式捕蠅器に及ぶものは今のところ見當らなく國策上一寸買つても高價でせう。これに酢と黒砂糖のまぜ物を塗り前

「蠅取りデー」に關連して最も嫌ひな色であることが分りました。そこで愈々蠅取り方法ですが、これは最も原始的な方法でありますが、どうもガラスの方が能率があるやうです。私の實驗では蠅の最も好物は酢と黒砂糖を混ぜたものとなつて居ります。捕蠅器にもこれをつけたらよいと思ひます。併しゼンマイによる自動廻轉式捕蠅器に及ぶものは今のところ見當らなく國策上一寸買つても高價でせう。これに酢と黒砂糖のまぜ物を塗り前

何人も見よ。老軀を犠牲に

吾等の市長青沼鋒太郎氏

銃後……この大感激美談

輝やかしい戦勝の陰には銃後の美談は必ず付き物だ、我平市實現に一意専心邁進した人情市長青沼鋒太郎氏の銃後に於ける美談は数多くあるが、ここに掲げる一篇は涙なくして聞けぬ銃後感激的な秘話である。

平市實現の大事業を成しをあげて泣いてゐる。純情な遂げ今では一死以つて君國の子供等は「アッあれは市に盡すの決心で忠勇なる出長サンだ」とその嚴肅に打征將兵遺家族に又た譽の傷たれ聲もなく感激の目を向痲軍人慰問に、更に名譽のける。

戦歿者英靈佛前にと献身的に席の温る間もないその嚴々として水の如く清く自然肅な熱情の姿に市民の目頭を常に熱くさせてゐた。八月八日は忠勇義烈の英靈を初めて迎へた舊盆十三日である。その日残暑焼くが如き午後四時半老市長は職務に身も心も疲れて退應し平市役所の正門を出た。

老軀は徒歩にて一路長橋町性源寺へ……そして人情市長の姿は戦歿將士の墓所へと急ぐ。〇〇戦歿者の前に現はれ瞑目しば墓標の前に類いて生ける人に物云ふ如く忠靈に感謝の涙と共に供養を捧ぐ……次から次へと英靈墓標に感謝の供養を捧ぐる人情市長の感慨果して如何に！ 弔意を捧げた市長の頬に一筋の涙!! 傍に見てゐたお参りの老若男女及び遺家族の方々は聲

に従つて流れ然も急流ともなり大川ともなる、更に寡言にして徒らに大言壯語するではなく事一度日支銃後問題に觸れるや滔々數萬言舌頭火を吐くかに見える、〇〇日市長室に於て平出身〇〇戦歿者の報を得た時の市長の姿はご傷ましいものはなかつた。この人情市長の燒香は故人戦歿勇士も草葉の蔭から何よりの光榮と力強さに感泣してゐる事であらう。

この老市長、吾等の慈父の事を思へば銃後を護る平市民は一人のこらす愈々奮起せざるを得ないであらう。(舊盆十三日記)

なかや洋服店の思ひ切つた改装

藝術要素を充分に備へ顧客に無限のサーブ

平市三丁目なかや洋服店織物等三千餘點、更に創作主永山小平氏は新時代の思入形での當代隨一の評ある潮の流を行く映畫界より一田村宗吉氏作品數十點を陳歩先に進む理想的廣告研究列一般顧客に觀覽せしめ綿家として縣内は勿論東都同製品の代用品に關する智識業者間までも知られてゐるを普及して高評を博したががこの程思ひ切つた堂々たる階下には新興氣分溢る藝術店舗改装し、記念に去るの價値の多い陳列方を以つ九日より三日間日東紡績株式最近流行の大小洋服を陳式會社及日本ステール協列してゐるので夜長の散歩會の後援を受け新裝階上にはセビ御立寄をお進めすスフの製産過程の圖解を以る。

祈武運長久
暑中御見舞申上候

平市長

青沼鋒太郎
縣會議員
平市會議員

野崎滿藏
縣會議員

小野晋平
縣會議員
小名濱町長

古川傳一
元縣會議員
植田町長

山崎登
植田物産株式會社專務

鷺清昇
元縣會議員

星一
代議士

安島重三郎
元代議士

鈴木林平
植田町會議員

高木保
小名濱町助役

福島縣町村長會

石城支部

木澤常松

草野央
電話八八番

四家又一
内鄉村會議員

平病院
院長 鈴木定藏
電話六四一

山田文一商店
電話二六二

合資平製作所
電話四一番

吉村安次郎
平市會議員

松本徳一
平市會議員

遠山稻吉
武藏鐵工所
電話五一四

勿來町石城炭礦々業所
赤井村寶山炭礦々業所

五十石喜一

城北炭礦平營業所

渡邊茂
電話五三一番

菊地徳太郎
平 電話二二二番

小田礦業所
日本曹達株式會社

日曹磐城礦業所

清野キヨ
平看護婦會長

和泉屋旅館
鈴木片濱自動車商會
電話二一七番

佐藤巖
鈴木耳鼻咽喉科醫院
電話三八一番

鈴木正男
院長

石城土木建築請負業組合一同
平市土木建築請負業組合一同

強口唯七郎
福好工業合資會社
電話二八二番

豊間村消防組幹部一同

江名豊間料理屋組合一同

尼子亭
御料理
電話二三〇番

扇屋酒店
銘酒販賣
電話一六五番

豊間信用販用組合
組合長 志賀重右衛門
事務主任 鈴木清

伊勢屋商店
阿部唯次郎

佐藤材木店
電話三三五番

釜屋商店
諸橋久太郎
諸橋元三郎

藤沼醫院

松村醫院

高久病院

關内藥局
西村屋藥局
幸川崎版所
新川町 電二八六